開催地名：愛媛県今治市	
開催日時	令和 3 年 9 月 17 日（金）　13:30～15:00
開催場所	今治市立朝倉中学校　体育館
語り部	平山　和哉　　（福島県いわき市）
参加者	朝倉中学校生徒及び教職員　約 100 人
開催経緯	・近年大きな災害が起こっていないため、生徒の災害に対する危機意識が低い。 ・避難行動について経験が少なく、知識が不足している。 ・学校として地域の防災・減災にどう関わっていくべきか学ぶ機会が不足している。
内容	（1）地震や津波に対する基礎知識 いわき市内は最大で 8 メートルの津波があった。学校の体育館よりも高い津波がきた。富岡町双葉郡富岡町というところは 21 メートル超の津波が来襲した。気象条件や満潮干潮の状況にもよるが、津波は第 1 波目よりも第 2 波目、第 3 波目と数を重ねるごとに高くなっていく。いわき市内最大観測 8mを観測した津波は、満潮時刻と重なった午後 8 時だった。地震発生からは約 5 時間が経過しているが、これが最も高い津波だった。 地震が起きて時間がたったとしても、津波警報が出ている海岸や川の河口付近には絶対に近づいてはいけない。 （2）東日本大震災時の火災被害 いわき市では 3 月 11 日に 7 件の火事が発生した。その後 1 週間で 9 件、合計 16 件の火災があった。なかでも 3 月 11 日 15 時 40 分に発生した火災は、さまざまな要因から火災の発生から鎮火までは約 16 時間を要した。焼失面積は 1 万 5000 平方メートル。焼失家屋が約 50 件と、過去に類を見ない規模の被害になった。 私がこの 119 番通報を受けた。経験則から通報内容で火事の規模はある程度予測可能だが、この通報ではこれほどの被害になるとは予測できなかった。 私たちは被害が拡大した理由を分析し、4 つの要因を挙げた。1 つ目は道路状況である。四倉消防署から現場に通じている道路が、津波で流されてきた廃材や船で塞がれ、消防自動車が迅速に向かえなかった。迂回には約 30 分を要した。2 つ目は断水である。大きな火災により水道管がほぼ使えなくなっていたため、道路にある消火栓から水が出ず、防火水槽から水を

	くみ上げて使用した。そのため、水の量が足りなかった。3 つ目は瓦礫である。通常、家と家の間は建築基準法によってある程度距離が確保されている。しかし地震や津波によって家が倒壊したため、家と家の隙間がなくなり、火が伝わりやすくなっていた。4 つ目は余震である。消火活動中も、断続的に大きな余震があったため、津波警報は継続して出されていた。人命救助を最優先にするため、消火活動中であっても、消防団の方と一時的に避難をして作業を中断せざるを得ない状況にあった。 （3）災害に備えてできること 災害に備えて様々な物資を確保しておく必要がある。自宅で食料や毛布を用意しておくだけでなく、その他に、燃料物資やスコップなどの道具、また自動車を持ち上げるジャッキなども備えておくと役立つ場面がある。また、普段から家族や身の回りの人と、災害時の行動について話しておくことも重要である。 その他にも、避難場所の確認と、家族の合流ポイントを予め決めておくことで、混乱を防ぐことができる。瓦礫等で道がふさがれていることを想定し、何通りかの避難経路を確認しておくことも有効だろう。普段から一人ひとりが災害に対して向き合うことが、被害の軽減につながるため、常に災害の可能性を考慮して備えていくべきだ。
開催地より	今回の講演では、地震だけでなく津波や火災による被害について知り、深刻さを改めて目の当たりにした。震災が発生してから個人にできることは少なく、日頃の取組や備えが重要だと感じた。正しい知識を覚えることが命を守ることに繋がることを意識して、今後も防災に取り組んでいきたい。